

松本市「上高地 再生と安全プロジェクト」概要

上高地は、急峻な山岳を背に明るく広い河原を流れる梓川の清流が成す景観が特徴です。この資料は、上高地の自然環境の「保存」と「安全な活用」を目的に行っている事業^{注)}の内容を解説するものです。

注)事業:自然公園法及び文化財保護法に掲げられた保護(保存)と利用(活用)の両立を図るため、「上高地ビジョン2014」(中部山岳国立公園上高地連絡協議会)、「特別名勝及び特別天然記念物上高地保存管理計画」(松本市、松本市教育委員会)に基づいているものです。

～上高地ビジョン2014_行動計画の抜粋～

基本方針1_上高地の景観と防災の調和 徳沢横尾地区への管理用道路の整備・維持管理

- ・新村橋付近で必要最小限規模の車道橋の設置
- ・梓川沿いの仮設道路・仮設橋・土砂堤防の撤去
- ・梓川左岸山脚部への管理用道路の設置

基本方針2_上高地の生物多様性の保全 希少野生動物の保護増殖

- ・ケショウヤナギなどの河畔林の環境保護のため、梓川の仮設道路移設と仮設橋の撤去

上高地の成り立ち

- 釜トンネルから上高地に至る梓川は、大正池を境に荒々しい渓谷から平坦で穏やかな流れに風景が一変します。
- この平坦な谷地形は土砂が梓川に長い年月をかけて堆積したもので、今も継続しています。
- この自然環境により貴重な生態系が成立しています。



西穂丸山より上高地を望む

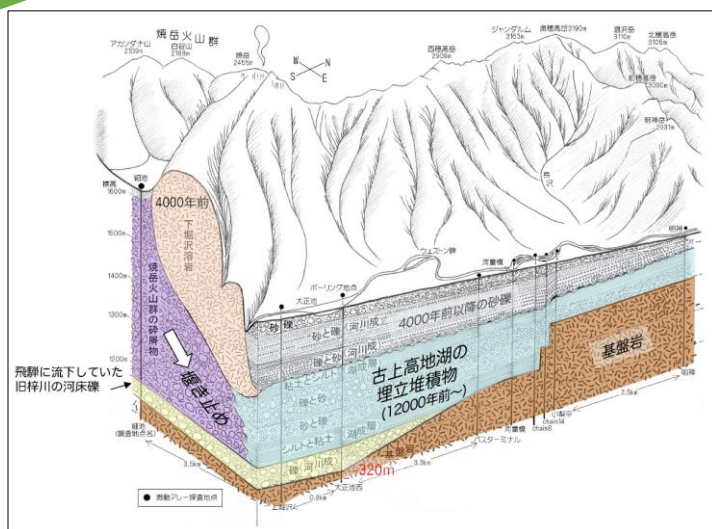


図:「上高地の地下断面」

※原山・河合(2013)の原図(図5)をもとに原山が編集・彩色
(「上高地の自然誌」にも原図が掲載)

【原図の出典】

原山 智・河合 小百合(2013) 上高地の過去12000年間の自然環境。「上高地・槍・穂高地域における自然環境の変動と保全・適正利用に関する総合研究」p11-24. 信州大学山岳科学総合研究所。

上高地自然史研究会(2016)「上高地の自然誌—地形の変化と河畔林の動態・保全—」p11. 東海大学出版部。

人の利用の経緯



昭和初期の徳沢牧場
(松本市立博物館 所蔵)

- 江戸時代末期までは木材生産の場として横尾よりもさらに上流にまで木こり小屋があり、活発に木材が切り出されました。
- 明治から昭和初期には牧場利用され、その後、登山や滞在のための安全対策などが、上高地の各所で施されてきています。
- 様々に守られてきた上高地とはいえ、手つかずの自然ではなく、長年、様々なかたちで利用してきた歴史もあります。

保存と利活用の両立は簡単ではない

- 安全に滞在するために必要な整備は、貴重な動植物にとっては脅威です。
- 人の利用をやめて保護する、という単純な話ではありません。
- 豊かな自然のように見える森も、数十年前の堤防設置など的人為的な影響で樹林化した場所があちらこちらにあります。



堤防設置により樹林化した森

解決すべき課題

- 横尾・徳沢は、トイレの維持管理や病人搬送の管理用道路が必要です。
- 現状は、仮設で川の中に橋や道を通し、松本市が管理しています。
- しかし、川の中の橋や土砂堤防は、河川流路を狭く単調化させ、自然環境と景観を大きく損ねています注)。
- 増水で被災した道路は、重機での復旧を繰り返してきました。
- 土砂堤防の撤去と恒久的な管理用道路整備が、合意事項です。



徳沢仮設橋と土砂堤防



管理用道路の復旧作業

注)土砂堤防が生物の生息場所を狭め単調化させ、ケシヨウヤナギやチョウ類、水生生物等の生息状況が変化しています。重機による復旧作業は、これら動植物の存在を脅かす行為です。

土砂堤防の撤去と管理用道路のルート適性化

- 上高地は平坦な河原を川が蛇行する「網状流路」が本来の姿です。
- 網状流路形成を阻害する土砂堤防は、撤去する必要があります。
- 上高地を利用する人々の安全を守るために、長期的な視点で自然環境と景観に影響が少ない管理用道路を再整備します。



梓川の本来の流れ(網状流路を形成)

【ルート・構造検討】梓川の流れを本来の姿に

- 出来るだけ人の手を加えない、手を加えるなら影響を最小化する、これが上高地における多くの方の合意事項です。
- 人間活動の影響を長く受けてきた上高地は、何をもって影響の大小を評価するのか、上高地のどのような状態を理想とするのか、を考え続けています。
- 本事業では、理想の姿を次のように考え、計画を立案しました。

理想の姿とは

- 私たちは「文化財指定された当時の状況を保存」という考え方を原則としました。
- 原則として「昭和3年指定当時の状態を理想の姿」を目標にします。
- 人の手が加わらずに変化(遷移)した自然は、保存対象と認識しています。

ルート選定の基本的考え方

- 指定当時から残る地形地質、動植物等は、範囲から極力除外し保存します。
- 指定時以降に人の手を加えた自然や景観は、改変の余地があると考えます。
- この視点に立ち、管理用道路等は地形的に設置可能な場所に通します。



堤防で囲まれ自然な状態でなくなった河畔林(整備対象)

保存対象への配慮

- 道路等整備では、指定当時の姿をとどめる山体崩落の堆積物、巨樹巨木等は、極力保存します。
- 整備計画では、これらを極力保存できるような道路ルート、構造とします。

貴重な生きものはどうなる？

- 整備範囲に貴重な動植物は数多く生息・生育しますが、個体が失われれば上高地から姿を消す希少な種は、調査の結果、見出されませんでした。
- 植物の移植も検討しましたが、移植行為自体が環境かく乱につながります。
- 移植による保全措置は、上高地では改変につながると判断し、原則として実施しないこととしました。



【保存対象】かつての山体崩落の証である花崗岩とその上に立つ針葉樹

計画概要

- 管理用道路は、左岸山脚部に寄せ河川への影響を極力排除したルートです。
- 道路は地形状況に応じた設計とし、土砂堤防や仮設橋を撤去します。
- 管理用車両が安全に川を渡るための橋を新村橋の架替えにより整備します。

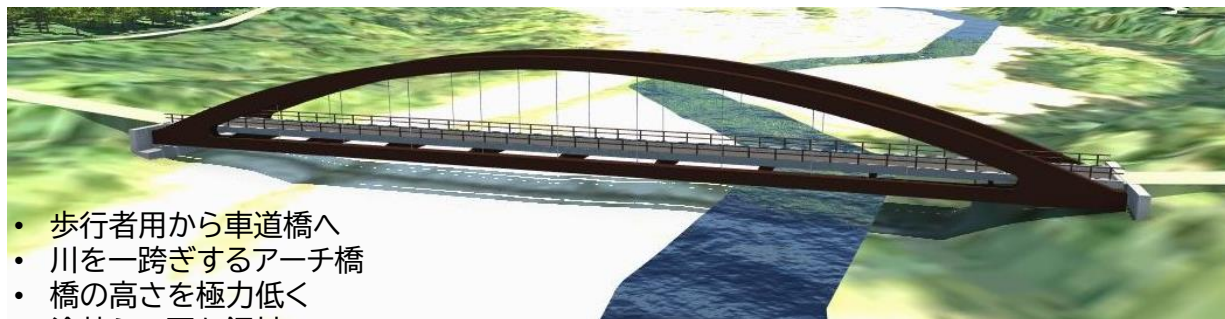


上高地の景観に配慮した安全な利用環境を創造します。

治山運搬路 許可車のみ通行可
(林野庁所管)

- 道路延長 幅員延長約3,400m、標準幅員4m
- 工事着手 令和3年度後半
- 橋梁形式 アーチ橋(ローゼ形式)
- 橋梁規模 橋長約84m、有効幅員4m、高さ約8m
- 工事完了目標 令和9年度

【新村橋架替えの概要】



- ・ 歩行者用から車道橋へ
- ・ 川を一跨ぎするアーチ橋
- ・ 橋の高さを極力低く
- ・ 塗替え不要な鋼材
- ・ 景観になじむ茶色系

橋梁イメージ

※周辺状況の再現は正確なものではありません。

(担当)松本市総合戦略局アルプスリゾート整備本部

〒390-1592 松本市安曇1061番地1

TEL(0263)94-2307

E-mail : alpsresort@city.matsumoto.lg.jp